

# 平成 22 年度 地域づくり実践講座 in 高崎経済大学

地域づくりは人づくり～学生と共に創ろう地域の元気～

平成 23 年 2 月 2 日に、平成 22 年度「地域づくり実践講座 in 高崎経済大学」が行われました。高崎経済大学の  
宮教授に講演していただいた後、学生が組織する NPO 団体である DNA の皆さんから活動発表が行われました。

## ◆大学は土台づくりの場

私は様々な地域活性化、地域づくりにかかわって  
おりまして、大学運営や地域活性化の仕事を  
しています。今日は、学生がいろいろな地域の  
人とかかわって活動することにより自分自身が  
成長するという、また、そのことが地域の  
活性化の一つのきっかけになるということを生  
生の口から話してもらおうと思っています。

はじめに大学と地域の連携について言うと、  
2008 年度は私立大学の 47.1%、私立短大の  
67.5%が定員割れで、希望すれば大学、短大、  
専門学校、どこにでも入れるというような状況  
です。特別の大学に入ることが特別の意味合い  
を持つ時代は終わって、ユニバーサル段階だと  
言われています。入学してその人が何を身につ  
け、何を考えたのか、というような基礎的な土  
台について問われるのであって、どこの大学へ  
入ったということはほとんど関係ありません。  
ですから大学とは、その人が 4 年間何をやったの  
かという土台づくりの場であるはずで

## ◆自己成長する場と機会の提供

我々大学の教員も自治体の皆さんも、大人た  
ちは学生に対して自己成長する場と機会を提供  
すべきだと思います。後ろ姿で勝手に育てと  
いう時代ではありませんし、かといって手取  
り足取り何かやるというものでもありませ  
ん。学生が自分たちで試行錯誤しながら、し  
かもチームでかかわって行く場を提供するべ  
きです。1 人ではだめ



です。孤立して活動しても成長はありません。  
チームで活動すると、必ず考えや方針の違いが  
生まれ、対立が生まれます。その中で話し合っ  
て、1 つのコンセンサス（合意）をどうやってつ  
くり上げるのか。一旦決めたことがうまくいく  
とは限りません。失敗したときにどうやって話  
し合っ折り返しをつけるのか、ということが大  
切なのです。

また、現場に行くと本当にいろんな大人がい  
ます。そういう人たちと出会い、かかわって 1  
つの事業を共同で成し遂げる。この経験が人を  
成長させるのです。

チームで学生が中心になって試行錯誤をして、  
現場でいろんな人と物と事柄に出会う。15 年  
間ずっと試行錯誤してきて、このことが非常に  
重要だという結論に至って、ここ 7、8 年ぐら  
い一生懸命やっています。かといって私が何か  
するわけではなく、後ろにいて仕組みを作った  
のです。それが DNA なんですね。私がかかわら  
なくても学生が自主的に活動して、お互いにや  
りとりをしながら集団で自己成長していくとい  
う仕組み、それを私なりに提供したというのが  
今日の報告になります。

毎年主役が替わる NPO を、学生を中心に作る  
というのは踏み切れないところがありましたが、  
正式な認証を受け、公的な責任を持つ NPO を作  
って初めて継続性が保障されるということで 2004  
年に NPO を作りました。それから創意工夫しな  
がら活動をしてきて、7 年目に至っています。

## ◆大学を教育の拠点として

地域政策学部というのは日本で最初に開設さ  
れた学部でしたから、どんな風に作っていった  
らいいのか分からない部分もありましたが、研  
究・教育・地域貢献の拠点形成ということを意

識的にやってきました。やはり大学ですから、  
研究の拠点としての機能を果たさないと大学ら  
しさはないわけです。

ここには専門家の先生がたくさんいますので、  
研究の拠点を作りたいと思い、大学に「日本地  
域政策学会」を立ち上げました。そういった中で、  
1 つは、内々ではなくて外の人とのつながりや  
情報をいかに日常的に継続的に担保するかとい  
うことを狙いました。

私は高崎経済大学を全国の中で学生が 4 年間  
で一番成長する大学にしたいと思っています。  
それには授業だけでなく、こういった社会活動  
も必要です。カリキュラム、授業、ゼミ、社会  
的なボランティア活動、サークル、部活などさ  
まざまな総合的なところで、育ち合うという場  
というような教育の拠点としてうちの大学が成  
長してくれればと思っています。

今、東京の大学というのは非常に悩んでいる  
んですよ。東京の大学というと全国から学生  
が集まっているように見えますが、実は自宅通  
学が 7～8 割という有名私大が増えてきていま  
す。それで何が起きるのか。家から大学に通っ  
て授業に出て、ちょっと単位を取って、サークル、  
バイト…という状況になって、現場で継続的に  
集団でトライ・アンド・エラーができなくなり  
ます。高崎経済大学はそういう意味では、7 割を  
超える人たちが全国から集まって、大学の周辺  
に下宿しているので、「夜の 9 時から集まるぞ」  
と言っても平気で集まる事が出来る。集団で  
話し合っているいろんなことに取り組む環境とい  
うのは本当に重要なんですね。

## ◆地域資源としての大学の価値

大学の地域資源の価値としては、以下の 4 つが  
考えられます。1 つ目には大学には専門家集団が  
いるということです。大学の先生というのは自  
立的に自分の研究を行っている人たちなので、  
そういう存在や価値観を大事にさえしてもらえ  
れば、結構喜んでいろんなことをやります。

2 つ目に学生のエネルギー（活力）という価値  
です。学生は本当にエネルギーがあります。し  
かし、どこで何をすれば自分なりの活躍ができ  
るのか、自分にとってプラスになるのかという  
ことがなかなか分からない。だから、エネルギ  
ーがちゃんと発揮できるような場と選択ができ  
る場を提供します。

3 つ目は多文  
化交流拠点とし  
ての価値です。  
例えば高崎経済  
大学には県外の  
学生が 7 割集  
まっています、留  
学生が今 150 人  
前後いますが、  
そういう県内  
外・国内外の人



たちが集まって交流すれば、そこから本当にい  
ろんなものが生まれます。また、地域とかかわ  
ることも多文化交流というか、様々な人との交  
流になるので非常に重要だと思っています。

4 つ目に、地域の知の拠点（シンクタンク機能）  
という価値です。「高崎経済大学へ行ったら、群  
馬県や高崎市周辺のさまざまなデータなどがす  
べてある」というように、今後 10 年間ぐら  
いで地域の知の拠点として構築していければと思  
っています。

## ◆人との出会いを丁寧につくる

学生はいろんな人と出会いながら、つながり  
ながら、多くの経験をしています。

例えば企業に行っても 10 社行って 1 社が OK  
してくれるくらいで、途中では苦労しているわ  
けです。そういう意味では交渉力や折衝力、コ  
ミュニケーション能力がつかます。

彼らは、毎週事務局会議を開き、何が良くて、  
何が悪かったのか、必ずその振り返り、情報の  
共有化をします。そういうふうに、丁寧にチ  
ームで事に当たることの大切さみたいなことを 1  
年半かけてトレーニングするわけですよ。だ  
から成長するんですよ。別に社会的にすごく  
影響力があったり、目立つからではなくて、そ  
の仕掛けを通して、人が人と信頼関係を持つ  
てつながって継続していくということがやっぱり  
大事だと思います。

こういった自分たちの自己成長のために、あ  
るいは自分たちの気づきのために、その結果、  
いろんな人と出会って、多分彼らと出会った大  
人たちも元気になっているはずですよ。お互い  
の人と人との出会いを丁寧につくっていくとい  
うことが、今日のテーマの地域づくりにとって  
は大事なんじゃないかなと思います。